

ミタカ探究もりもりプロジェクト

ミタカでミライ探究部を充実させ、学びであふれる地域に

チーム名：三鷹の探究便
西村拓真，豊島大史，望月絵莉，山下瑠里子
ゼミ教員：柴田彩千子
研究協力者：青柳智己，後藤範子，根本裕美，樋口悠太，四柳千夏子

東京学芸大学教育学部教育支援課程教育支援専攻生涯学習コース柴田ゼミ
東京学芸大学院教育学研究科教育支援協働実践開発専攻教育協働研究プログラム修士

キーワード：探究学習 放課後活動 地域をつかった学び 課題発見力 社会を良くしていこうとする力

1 はじめに

探究学習は、当事者として主体的に課題に取り組むことで、生徒が自身の未来を切り拓く力を育める学習方法である。文部科学省も打ち出すように、「自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力」を身につけられるようにすることが重要である。三鷹市ならではの探究学習を進めることで、三鷹に住む大人たちと協力しながら学びを深めながら、身のまわりを良くしていこうとする当事者意識や課題発見力の醸成を行うことができる。

そこで今回の提案は、三鷹市の公立中学校、三鷹市の施設や団体、地域の方々や保護者、東京学芸大学の生涯学習に関するゼミに在籍する「三鷹の探究便」が協働しながら、「ミライ探究部」を創設し、地域という世界から学びを深めていく場の実現を伝えるものである。本プロジェクトを通して、子どもたちが三鷹に誇りを持ち、さらに自信をもって地域や社会を良くする力の形成に貢献したい。

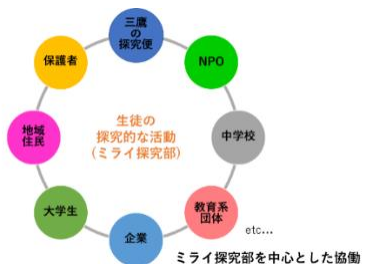
図 1

2 三鷹の放課後学習の現状

三鷹市はこれまでに子どもを中心に据え、児童・生徒の学びをより多くの大人で支える文化が醸成されている。

例えば、小中一貫教育や、学校三部制の導入、アントレプレナーシップを育成する「四中ゆないと」や、放課後学習支援「地域未来塾」がある。また、「令和4年度三鷹市立小・中一貫教育校全7学園の評価・検証報告」にも記されている通り、個別最適な学び・地域学習キャリア教育・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成などが志向されている。「ミライ探究部」を設置し、課題発見力や、自分の力で社会を良くしていこうとする当事者意識の醸成を図ることによって、既存の取り組みとあわせてさらに三鷹市の教育を推進する。

加えて、2024年1月に三鷹市立第四中学校の生徒297名を対象にアンケートを実施した結果、53人が「総合の授業がとても好き」かつ「社会課題に比較的/とても興味がある」と回答した。そこで今回は、社会課題に向き合いたい生徒のニーズに応え、生徒にとって挑戦の機会となる場を提案する。



3 提案（具体例）

三鷹市の公立中学校に「ミライ探究部」を設置し、週1回放課後で探究学習を行う。学校外にあるさまざまな資源を活用し、体験活動や人との触れ合いを通して「ジブンプロジェクト」を行う。

具体的には、まず、ウォークラリー形式で街を歩いていく「ミタカマチ探検」を行う。街を探検して気になったことをメモし、地域の人々と触れ合っていく。偶然出会った人々、三鷹ならではの本、映画、お店、施設や自然と対話をし、気づいたことや面白いと思ったことをメモする。これらの活動を通して、自己と見つめ合い、発想を柔らかくし、視野を広げ、生徒一人ひとりの“探究の土”を耕していく。

次に、三鷹をよくするために自分ができることは何かを考え、対話を深め、改善策を提示する。「こうなったらいいな」と思うもので自分自身にミッションを設定し、自分で探究するテーマを決めていく。そして、ここまでの気づきや、自分自身のミッション・計画を発表する「マナビ共有会」を行う。発表を通して、他のメンバーと対話を深め、新たな気づきを得る機会とする。また、生徒の保護者や地域の方々、先生方をお呼びし、気づきと課題意識を共有する。大人からのフィードバックは、生徒にとっては貴重な機会であり、同時に大人にとっては生徒の普段とは違う側面を捉え、生徒の成長を身近に感じられる機会になるだろう。また、生徒同士、同じ学校ではないが「共に地域を作っている」という意識の醸成も重要となる。そこで、他の「ミライ探究部」と、お互いの取り組みをオンラインで交流をし、同世代間のネットワーク構築を試みる。このフェーズでは、同じ地域に住む同世代や三鷹市民と共に話し合うことで、子どもたちは、同じ三鷹市で生活している自覚と仲間意識が芽生え、三鷹への誇りの醸成にも寄与できるだろう。「マナビ共有会」の後は、フィードバックを整理したうえで、インタビューを行い、課題を明確化していき、改善策を検証していく。検証した改善策は自分で設定したミッションに込められているかどうか、この改善策でどんな人が喜ぶか、などの視点から取り組めるようにサポートしていく。また、企業に務めている方やNPOに務めている方をお呼びし、多角度のフィードバックを行う。

最後に、改善策を考え検証を終えたあと、「全体共有会」を実施する。ここでは1年間を通して学んだことや生まれた課題意識などをふりかえり、ポートフォリオにまとめていく。ポートフォリオは、他の生徒や関わった大人を中心に共有していく。また、ポートフォリオでは1年間で学んだことや活動を通して得られた課題を自分なりに表現していく。学びの表現は多様であると考え、絵・写真・俳句など、自由とする。加えて、活動を通して得た課題にまで目を向けることで、次の「ジブンプロジェクト」に一歩踏み出せるようにする。

これらの放課後活動が、どのように作用をしているのかについて、質問紙調査などを用いて検証することで、中長期的な発展も視野に入れる。

我々は、「ミライ探究部」の活動が、生徒一人ひとりに課題を発見する力が身につく、社会を構成するさまざまな人がいて生徒自身もそのひとりであることを自覚しながら、自分の力を使いながら誰かを幸せにする経験を増やしたいと考える。

4 おわりに

この活動は、協働がすすみ多様な主体・世代が活発に活動しているとともに、自然や文化などの地域資源が豊富な三鷹市だからこそできることである。「三鷹市教育ビジョン2022」に示されて

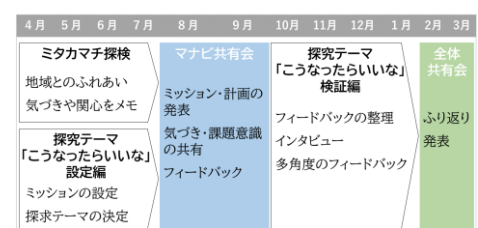


図2 「ミライ探究部」のスケジュール

いる「目指す子ども像」、すなわち「自ら学び続け」、「自分の考えをもち、他人と豊かなコミュニケーション」があり、「国際的な視野とチャレンジする心をもち、積極的に社会や地域に貢献」する力を身につける場となるだろう。この活動を通して、生徒が自己の問いから学校、学校から三鷹市、三鷹市から日本、日本から世界へと視野が広がり、生徒自身が「自分でも何かができる」と思える場を増やしたい。